

## くらしナビ 住まい Living

kurashi@mbx.mainichi.co.jp



調湿炭「炭八」を床下に敷いた例—島根県出雲市で

雨の日に吸い込んだ湿気を、晴れた昼間に屋外へ吐き出すためだ。湿度が高くなりがちな北西の部屋や、台所など水回りの床下を中心、15畳分程度敷く人が多いという。

\*  
出雲土建は、炭八を用いた賃貸マンション「炭の家」も展開する。鉄筋コンクリート造り3階建てタイプを出雲市内に21棟(33戸)引き渡した。各戸の天井裏に炭八を並べるのが特徴で、各棟

## におい、害虫も減少

石飛社長は「炭八は家を長持ちさせられるだけでなく、人の体も健康にする」と力を込め、県外での拡販を進める方針。問い合わせは同社(☎0853・24・8808)またはホームページ(<http://www.sunis8.jp>)。

コンクリートやビルクロス、アルミサッシなど、新しい建材の普及で気密性の高い家が当たり前になつた。気温が上がるにつれて、湿気に悩まされる日々が続く。そこで近年、床下に敷いて湿気を吸つたり吐き出したりする調湿木炭が注目されている。

島根県出雲市で調湿炭「炭八」を製造販売する「出雲カーボン」は関東や関西、中四国に販売代理店があり、通信販売を含め昨年度

1億3000万円を売り上げた。

親会社の建設業「出雲土建」と社長を兼務する石飛裕司さん(55)は、公共工事の減少と共に新規事業を模索し、環境分野に注目。

廃木材をリサイクルして炭にしようとする夏から2年をかけて全国の炭化工場を見学して回った。

さらに、島根大学の複数の研究室と共同研究を行い、炭の基本的な物性や調湿炭の製造条件などを調べ上げ



は炭八を敷くことで、床下の湿度は約15～20%下がった。ゴキブリやムカデが減ったという声も多い。1回敷けば半永久的に使え、天日干しなどメンテナンスは不要。同じ炭でも、肉や魚を焼くのに使われる備長炭(広葉樹)は調湿能力が高い。

## 簡単施工で効果長持ち

て800度で焼く方法を確立した。

02年9月に炭八を発売。45枚角の不織布に1袋当たり約1.3kg詰めた。1畳当たり8袋(税・送料込み9600円)使う。実験で

雨の日に吸い込んだ湿気を、晴れた昼間に屋外へ吐き出すためだ。湿度が高くなりがちな北西の部屋や、台所など水回りの床下を中心、15畳分程度敷く人が多いとい

うている。比較実験用の炭八なしの部屋に比べ、閉め切っていても、「ムツ」とする感じじと建材のにおいがいはずれも弱かった。

トの上に直接置く。床に穴を開ける作業を伴うことがあり、地元の工務店に頼むのが無難か。換気口がエアコン室外機や植木鉢などでふさがっていないかを必ず確認する。夜中や

ともほぼ満室状態が続いている。比較実験用の炭八なしの部屋に比べ、閉め切っていても、「ムツ」とする感じじと建材のにおいがいはずれも弱かった。

施工方法は袋のまま床下に並べるだけ。建物の下部全体にコンクリートを敷くベタ基礎の場合は、コンクリー

\*

天井裏に調湿炭を並べたマンション「炭の家」

NAVIGATOR

調湿木炭が注目されています。